



SORAK Development Agency

Registered NGO: No:8726

UEB Zone, Church Road –Mullago; P.o Box, 71883 Clock Tower –Kampala; Tel: +256 703515225
Mubende Office: Lusallira T/C, 16km from Mubende Town along Mubende –Fort portal Road



SORAK Development Agency

Registered NGO: No:8726

UEB Zone, Church Road –Mullago; P.o E
Mubende Office: Lusallira T/C, 16km from

<番外編：あしながウガンダ&SORAKの共同事業> ～教育の重要性及び月経時の衛生管理における生徒の認識向上～

活動期間 2018年11月19日～2018年11月20日

概要及び背景

あしながウガンダは日本を拠点とした国際組織であり、ウガンダにオフィスを構え学業に優れながらも資金不足のために大学レベルの教育が受けられない（アフリカ諸国の）孤児を対象に高等教育（大学）の機会を提供している。

SORAKはあしながウガンダの協力のもと、32校（小学校28校、中学校4校）にて再利用可能な生理用布ナプキンの作製をはじめとする月経時の衛生管理および教育の重要性について意識改革を実施。

あしながウガンダの心塾のプログラムである「よりよい地域づくり」の協働事業として、心塾に所属するアフリカ大陸33か国から来た若きリーダーたちをムベンデ県に招いた。

あしながの学生たちは8グループに分かれ、各グループに学生4名、あしながスタッフ1名、SORAKスタッフ1名を配置し、各グループは1日2校、2日間で計4校訪問し、ムベンデ県の脆弱な立場にある学生たちにモチベーションを高めるスピーチを行った。

活動の目的

再利用可能な生理用布ナプキン作成を通して、学校の生徒たちに教育の重要性を伝え、学校に通い続けるよう働きかけることである。

活動内容：

あしながチームとSORAKが実施した活動内容は以下である。

• 教育の重要性（個人の経験を伝える）

あしながの学生は孤児として育った背景をもち、様々な困難を経験し質の高い教育を受けるため奮闘してきた。学費の工面だけでなく、文具や教材も不足し、1日2食の食事の確保ですら憊ならなかった学生もいた。しかし教育を受けるのに対する様々な困難にも関わらず、教育の持つ力や可能性を信じ諦めることなく立ち向かい続けた。そのような背景を持つあしながの学生たちのスピーチを通し、学校の生徒たちによりよい将来のため勉学に励むよう激励の言葉を送った。また両親、教師、年配者の言うことをよく聞き、中退や性交渉、飲酒等の危険へ繋がりを懸念する悪いグループの子ども達と付き合い合わないよう生徒たちに呼びかけた。

• 月経における概要

あしながチームは学校の生徒たちに月経の概要、また月経は女性の生殖機能が成熟した後に起こる周期的な生理現象であると説明した。生徒たちに自身の月経を自分で対処する方法や、他の生徒と（使用済みの）生理用品の共有を避けるなど衛生面でも重点的に指導した。「月経」という言葉を聞いたことがない学校の生徒もいたが、月経がどのようなものでだれに起こる現象であるかということ、またどのような兆候や症状が起きるのかきちんと理解させるよう十分な時間を取って説明した。

• 再利用可能な生理用ナプキンの作製

あしながチームは学校の生徒たちに、生理用ナプキンを見たことがあるか、使ったことがあるか、更に再利用可能な布ナプキンを見たことがあるか、作り方を知っているかどうかを尋ねた。使い捨てナプキンを見たことがある生徒もいたが、ほとんどの学生は見たことも使用したこともないと答えた。これはまだ初潮を迎えていない生徒もいたからである。布ナプキンを見たことがあり、作り方を知っ

ていた生徒は一部の転校生のみであり、前の学校で習得した技術であった。チームはまず布ナプキンで使用されるそれぞれの布の素材の役割を説明し、材料としてソフトエンド、巻尺、針、糸、ストレッチャー、ポリエチレン、綿、ボタンなどを使用した。

1日のトレーニングで全ての材料において細かく説明する必要があったため、実践的な布ナプキンの製作時間は2〜3時間となった。トレーニングで製作した布ナプキンは生理用品を必要としている女子生徒へ寄付した。残った材料は、ナプキン製作が今後も学校で指導し続け定着するよう、また月経を理由に学校を欠席する女子生徒の問題への取り組むように、学校へ寄付した。



ムベンデ県カサンビヤにあるカバンバ・ミリタリースクールにてあしながチームが教育の重要性について話している。



カバンバ小学校にて再利用可能な生理用布ナプキン作製の実践講習会の様子。



写真左：聖ドン・ボスコ小学校にて、あしながウガンダの学生がより良い将来のために学業に努めるよう生徒たちに語りかけている。
 写真右：あしながウガンダの学生が生理用ナプキンがどのようなものなのか知っているか尋ねている。



写真左：聖ドン・ボスコ小学校にてあしながチームが生徒たちの目の前でナプキンを縫っている様子。
 写真右：聖マティア・ムルンバ小学校にて人生において成功するためには先生と両親のいうことをよく聞くよう指導している。



写真左：ナプキンを縫って実演として見せている様子。
 写真右：聖マティア・ムルンバ小学校の生徒との集合写真。



真左：ムグングル小学校にて、布ナプキン作成の寸法の正確な測り方を示している。

写真右：布ナプキン作成用の生地を示している様子。



真左：ムグングル小学校にてナプキン製作に使われる生地を整えている様子。

写真右：あしながのチームメンバーとSORAKスタッフによる集合写真。

指導の結果：

- 学校の生徒 3,426 名に指導が行き渡り、より良い将来のために学校へ通い勉学に励むよう呼び掛けることができた。あしながチームによるスピーチは、幼少期に親を亡くした話や、経済的苦難、学費が払えず家へ帰された話など、個人の実体験に基づくものであり、教育は人生を変えることができる機会であると学校の生徒たちを大いに鼓舞し、彼らの勉強に対する姿勢を変えることができた。
- 学校の生徒たちは現地で調達できる材料で作る生理用布ナプキンの製作法を学んだ。
- 学校の生徒たちは素行の悪いグループとの付き合いを避け、共に勉学に励み学業や将来について相談し合える仲間と積極的に交流するよう促された。また、個人の成長と成功のためには先生や両親に従うようにも指導された。

以上